

ごみ処理の有料化に関する説明会

1 日 時：令和3年7月20日(火) 午後7時～8時

2 場 所：笠原コミュニティーセンター

3 出席者：23人

4 次 第

(1) あいさつ

(2) ごみ減量啓発動画の視聴

(3) ごみの有料化(案)の説明

(4) 質疑応答

Q：ごみ処理の有料化よりも、焼却処理そのものから脱却すべきではないか？

A：クリーンセンターを更新する際には、そうすべきだと考えます。ただし、中遠クリーンセンターは、まだ十分に使用可能であるので、今はできません。

Q：全国や県内で、半分以上有料化していると言うが、人口比率では18%しか有料化していない？人口が少ない市町村が有料化しているのではないか？

A：東京都は、分別をほとんど行わず、全てのごみを同じ集積所に雑多に出しています。県内では、静岡市も分別があまりされていません。ごみ行政は、人口が少ない市町村ほど進んでいます。そのため、有料化も同様の傾向があります。

※浜松市は、現在、有料化を検討中です。(当日は回答をしていません)

Q：ごみ処理の有料化より先に、やれることがあるのではないか？なぜ急ぐのか？

A：温室効果ガスを46%削減することは、考えられる全てのことを行わない限り、達成できません。市も、温室効果ガスを削減しなければならないのは分かっていますが、財政が逼迫する中で、そこに費やす予算はありません。そのため、ごみ袋1袋燃やすのに60円が掛かりますので、その半分の30円を皆さんに負担していただいて、その収入で、さらにごみを減らしていくなど、温室効果ガス削減のための様々な施策を、行っていきたくと考えております。

Q：掛川市は、有料化しているとは言え、1袋22円である。それでもごみが少ない理由は何か？

A：掛川市のごみが少ない理由は、次のとおりです。

①草木はクリーンセンターでは一切受け入れを行わないで、民間施設で肥料化されています。

②旧大須賀町、大東町では、自治会が主体となり、古紙回収を行っています。

③住民がクリーンセンターへ、ごみを直接持ち込む際、住所・氏名・ごみの種類を申請書に書かせています。手間が掛かるため、直接搬入のごみがとても少ないです。

④市内で1,000人ものボランティアが、集団回収などの際に、ごみの分別指導等を行っています。

※国の統計には、資源回収された古紙等もごみとして含まれています。袋井市は資源回収に補助金を出しており、数量を把握しているのので、国の統計にもその数量が含まれています。掛川市は補助していないので、数量も把握しておらず、国の統計にも含まれていません。(当日は回答をしていません)

※ごみの袋に、地区名、氏名を記入しています。(当日は回答をしていません)

以上が、掛川市のごみが少ない理由です。ただし、家庭から出される収集ごみの量は、袋井市と変わりません。

Q：有料化を行うと、森町と不公平にはならないのか？

A：森町は既に有料化を行っており、今までは森町の住民の方が、負担が大きかったです。袋の値段が違うことで、不公平になるとは考えません。

※森町は、平成19年度から有料化を行っています。(当日は回答をしていません)

Q：少子高齢化により、ごみが減るのではないか？

A：全国的には少子化により、人口は減り、ごみも減っています。袋井市は人口がわずかに増えているが、ごみはそれ以上に増えているのが現状です。将来、ごみは減るかも知れませんが、温室効果ガスを46%削減できるまでに、ごみが減ることはありません。

Q：10円、20円と、段階的に上げるべきではないか？

A：30円は費用対効果が高いということで、提案をさせてもらっています。ただし、決定事項ではありませんので、今回行っている説明会でご意見をいただく中で、総合的に判断させていただきたいと考えております。

Q：中遠クリーンセンターで行っていた衣類の回収が無くなったがどうしてか？

A：今まで回収された衣類は、多くは中国に輸出されていきました。しかし、中国が一切受け取らないとなったため、行き先が無くなってしまい、業者が回収をやめてしまいました。現在、中遠クリーンセンターでは行っていませんが、泉町や下山梨の古紙の駅には回収BOXがあります。また、着られる服は、川井の「キングファミリー」という店で、受け取ってくれます。

Q：ごみの不法投棄が増えるのではないか？自治会が対応するのでは大変である。

A：現在、2人1組で不法投棄のパトロールを行っています。それでは、不十分だと考えますので、人数を増やし強化させていただきます。自治会にご負担が掛かるのは申し訳ありませんので、ご相談させていただきたく中で、対応させていただきたいと考えております。

Q：令和5年4月に、古いごみ袋で出した場合は、回収してもらえないのか？

A：そういうことになります。その頃になったら、事前周知をさせていただきます。

Q：藤枝市は有料化していないのに、ごみが少ないのはなぜか？

A：藤枝市には、民間の生ごみ処理業者があります。本来、市内にそういった業者があるのが理想であり、我々も市内の業者にお願いしていましたし、業者もやりたいと考えていました。ただし、立地先の地元の理解が得られず、うまく進んでいません。そのため今回、大型生ごみ処理機を何か所か設置することで、その代替策とならないかを模索しております。

Q：唐突感が否めない。ごみ処理の有料化は、コロナ禍ということで、1年間延期されたようだが、1年前と今では、状況は変わっていないのではないか？

A：変わった状況としては、菅政権誕生後、国の打ち出した「2030年までに温室効果ガスを46%削減」、「2050年にはカーボンニュートラルの実現」というものがあります。これに取り組むためには、ごみ処理の有料化をなるべく早く行いたいと考えました。

Q：生ごみ処理機の補助をやめた理由は？再び行うだけの効果はあるのか？ダンボールコンポストについてもやめた理由は？

A：関心が高い方たちは、補助を受け、導入していただいたと思います。ただし、補助は1回しか受けられませんので、新規の希望者が減ってしまいました。そのため、市の財政も厳しいということで、打ち切りになってしまいました。今回、ごみ処理が有料化されれば、もっと多くの人に関心を持っていただけるのではないかと考えております。ダンボールコンポストについては、好評をいただいておりますが、そのもの自体が生産中止となってしまったため、こちらも打ち切りとさせていただきました。

Q：地域住民が希望すれば、説明会を行ってもらえるか？

A：既に4か所ほど、少人数でも対応させてもらっておりますので、ぜひお声掛けください。

Q：有料化してもごみが減らなければ意味がない。結果も市民に周知するのか？

A：今までのごみ処理の有料化は、ごみの処理費を補うことが主目的でした。今回、袋井市が行おうとしているのは、その収入でごみを分別し、リサイクルを行い、ごみの削減を行うというものですので、必ずごみを減らします。結果についても、皆さんに周知してまいります。